

音源の比較試聴(53)
—スメタナわが祖国—

1. 始めに

前報(52)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+、ベルリンフィルデジタルコンサートおよび NHK ONE からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ACCENTUS MUSIC KKC 1171(45 回転盤)

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

ヤクブ・フルシャ指揮バンベルク交響楽団

ドイツグラモフォン 419111-1

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

ラファエル・クーベリック指揮 Bayerischen Rundfunks Symphonie Orchester

ACE of Diamond SDD 161

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

ラファエル・クーベリック指揮ウィーンフィル

CD は下記を使用します。

RAC BVCC-34090~91

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

ニコラウス・アーノンクール指揮ウィーンフィル

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

セミヨン・ビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

キリル・ペトレンコ指揮ベルリン・フィルハーモニー

NHK ONE のクラシック音楽館のアーカイブからも上記と同一の曲を選択します。

ベドルジハ・スメタナ 連作交響詩《わが祖国》

セミヨン・ビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

CD

EMT981→TruPhase(B)→TruPhase(A)

STAGE+、ベルリンフィルデジタルコンサートホールおよび NHK ONE

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で、モルダウのパートを聴いていきます。

アナログのフルシャ指揮バンベルク交響楽団盤は、2019年のダイレクトカットティング録音の45回転盤で、極めて自然でディテールの再現に優れ、弱音は美しく。怒涛の盛り上がりも破綻を見せません。

クーベリック指揮 Bayerischen Rundfunks Symphonie Orchester 盤は、1971年の録音で、上記のバンベルク交響楽団盤と同じくドイツのオーケストラですので演奏自体はよく似ていますが、ダイレクトカットティングの45回転盤を聴いてしまうと音の精度が及ばないのはやむを得ません。

クーベリック指揮ウィーンフィル盤の ACE of Diamond は馴染みがありませんが、ジャケットをみると DECCA の録音と書いてありますので、DECCA カーブで聴いていきました。1967年の録音で盤質はよくありませんが、ところどころにウィーンフィルらしい木管や弦の質感が現れます。

CD のアーノンクール指揮ウィーンフィルの演奏は、2001年の楽友会館のライブ録音です。EMT981らしいアナログ的な穏やかな音質で、ウィーンフィルの中低域の厚みのある演奏です。

STAGE+のビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の演奏は、2021年の本拠地での演奏で、これぞスメタナという極めつきの演奏であり、弱音から総奏までの緻密な表情を崩さないところを見せてくれました。

ベルリンフィルデジタルコンサートのペトレンコ指揮ベルリン・フィルハーモニーの演奏は、2024年の収録で、折り目正しくかつちりとした演奏でベルリン・フィル大ホールの響きが豊かです。

NHK ONE のビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の演奏は、NHK ホ

ールでの収録で、たまたま 3 日前の放送の見逃し配信期間中でしたので試聴しました。演奏はまぎれもなく上記の STAGE+チェコフィルの演奏で、光アイソレーション以前に比べれば音質も向上していますが、上記の STAGE+に比べると音の精度が及ばないところがあり、NHK の音楽配信には頑張って欲しいところです。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、収録年代や収録環境ならびに媒体の特徴が明確に聴き取れました。

以上